

André Blais, Simon Labbé-St-Vincent, Jean-François Laslier, Nicolas Sauger, and Karine Van der Straeten. 2010. "Strategic Vote Choice in One-round and Two-round Elections: An Experimental Study." *Political Research Quarterly*. 64(3) pp.637–645.

法学研究科 D2 ソングェヒョン 宋財 滋

1 概要

目的 一回投票制と二回投票制における戦略投票の傾向に違いがあるか

結論 1. 二回投票制においても戦略得票 ○
2. 二回投票制において若干弱いが、概ね変わらない

2 はじめに

- 投票決定における 2 つの判断基準
 - 候補者に対する感情 (好き—嫌い)
 - 候補者の当選可能性 (viability)⇒ 有権者はどの基準で投票決定を行うか
- 実験室 (laboratory) 実験を採用
- Cox (1997): 二回投票制において戦略投票はより複雑であり、一回投票制に比べ現れにくい
- Blais (2003, 2004): 二回投票制における「逆」戦略投票
 - 政策的シグナルとして当選可能性のない次善の候補者に投票 (一回目)

3 実験デザイン

- 21 名で構成された 2 つのグループ
- 各グループは 8 回分の選挙 (4 回: 一回投票制 / 4 回: 二回投票制)
 - グループ A は一回 → 二回; グループ B は二回 → 一回
- 政策空間 ($\in [0, 20]$) 上に 5 人の候補者 (1, 6, 10, 14, 19)
- 有権者の位置はランダムに決定 (各ポイントに 1 名ずつ)

- 有権者は全体の分布を熟知; 選挙制度が変わると位置も再割当
- 報酬は€ 20-| 自分の位置 - 当選者の位置 |¹⁾
- 投票の際、有権者には投票した候補者の主観的な当選確率を [0, 10] で回答
- 秘密投票
- 選好のみで投票を行う場合、A, E は 4 票、B, D は 4~5 票、C は 3~5 票
 - この場合、A と E は必ず当選できない。当選可能な候補者は B~D
 - 一回・二回共通。実は戦略投票を行っても A と E は当選不可能²⁾
- Table 2 (p. 640): 各候補者の得票率; 一回・二回に統計的有意な差 ×
- Table 3 (p. 640): 各候補者の主観的な当選確率 (標準化)

4 分析結果

- Table 4 (p. 640): 投票決定の条件付きロジットモデル
 - Benefit: 該当候補者が当選した場合、得られる報酬
 - Viability: 該当候補者の当選可能性 ($\in [0, 1]$)
 - Candidate A~E: 支持候補者 (Base: Candidate C)
 - 二回投票制の場合、一回目の選挙で推定
- Table 5 (p. 641): 学習の効果を除去するために、最初の 4 回分のみ使用
- Table 4, 5 において二回投票制の場合 V の係数がやや小
 - = 二回投票性において戦略投票の傾向がやや小
- Table 6, 7 (p. 641): 候補者の得票率・主観的当選可能性の平均
 - 制度別 + 前後³⁾別
 - 候補者 A, B において ↓: 学習の効果あり
- Table 8 (p. 642): 制度別 + 戦後別に分けた場合の条件付きロジットモデル
 - 前後に関係なく V はほぼ同じ
 - 二回投票制において V はやや小
- 当選可能性に関しては学習しているものの、当選可能性がもつ影響力そのものは一定

¹⁾ モントリオールで行われた実験では€ でなく、カナダ\$

²⁾ 運良く決選投票に進出しても必ず負けるため

³⁾ 前の 2 回分と後の 2 回分

5 結論

- B と V は正の効果も持つが、 $B < V$
- 二回投票制において V の効果はやや小
- Cox (1997) を支持
 - 必要とされる情報の複雑性による
 - しかし、本稿は、その差は大きくないことを実証
- 単純多数制-PR の比較研究 (Abramson et al., 2010) との整合性
- 二回投票制においても戦略投票が働くのに多党制の理由は?
 - 選挙制度は政党数の規定要因の一つ
 - * 社会的な亀裂・構造 (Neto and Cox 1997)、政党資金法、選挙法なども重要
 - そもそもこの研究は政党システムではなく、有権者の行動を確認するための研究
- モデルの改良可能性
 1. 政党、候補者のインセンティブ (立候補、協力など) を考慮に入れたデザイン
 2. 制度と交絡が考えられる要因を入れたデザイン
 3. より多様な制度で比較

コメント

1. いかなる場合でも有権者は「損」をしないが、大丈夫か
 - プロスペクト理論によると「損」は異なる意味を持つのでは
2. 2002年、ル・ペン(父の方)は…?
3. 操作化の詳細が載っていないため、なんとも言えないが、 $V > B$ というのは妥当か。 $V \in [0, 1]$ で $B \in [0, 20]$ なら、スケールが異なるため直接比較が不可能。この場合、 $V > B$ は当然の結果。むしろ、 V も B も標準化してからの結果なら問題 ×